姫路市総合福祉通園センター「ルネス花北」成人部機関紙

# ゆうあいだより

障害者支援センター
かしのきの里
在宅障害者デイ・サービスルーム
書写障害者デイサービスセンター
広畑障害者デイサービスセンター
障害者やすらぎルーム　障害者体育館

あぼしリサイクル事業所
ぱっそ・あ・ぱっそ

№184　令和６年(2024年)２月20日発行

令和６年を迎え、早２か月が過ぎようとしています。年初から大きな災害が発生しました。能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表します。

このような災害はいつどこで起こるかわかりません。自分が今いる地域はどのような場所にあるか、自分の地域にある避難所はどこか等、日頃から防災意識を持って備えることが大切だと感じました。皆様もぜひ災害時における行動や災害対策を今一度、周りの方々と確認してみてください。

## ゆうあいギャラリー

タイトル

「あたらしいつき」

在宅障害者デイ・サービスルーム

習字教室

作：小島　芳郎　さん

広く活動内容を知っていただくために、利用者の写真を多く掲載しています。
掲載写真は、ご本人の了承を得たうえで使用させていただいています。

特集

## 第 22 回ルネス花北芸術祭を実施し、節目として思うこと

広畑障害者デイサービスセンター　所長　竹田公子

11 月 12 日（土）と 13 日（日）の２日間で開催した『第 22 回ルネス花北芸術祭』（以下、『芸術祭』）について報告させていただきます。

『芸術祭』は平成 14 年（2002 年）から始まりました。日中活動で、利用者が創作活動をしていながらも作品を披露する機会が少なかった当時、絵画、書道、手芸…各種教室を展開している在宅障害者デイ・サービスルーム（以下、ルネスデイ）の職員が発起人となって『芸術祭』が誕生しました。参加事業所はルネスデイ、重度障害者活動支援センターえぶりぃ、白鳥自立センター（現 書写障害者デイサービスセンター、以下書写デイ）の３事業所でした。会場に七夕の笹飾りがあったことから、初回のみ夏（７月）に開催したことを思い出します。その後、平成 16 年（2004 年）に広畑障害者デイサービスセンター（以下、広畑デイ）が加わり、４ 事業所が合同開催するスタイルで定着しました。

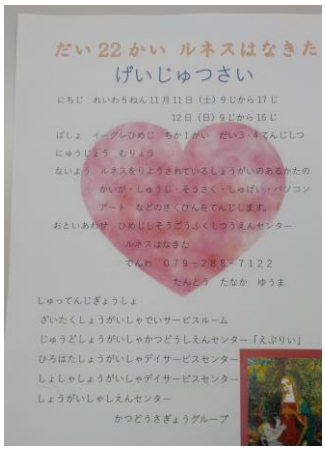
『芸術祭』は、創作活動の披露の場＝作品展として位置付けています。ルネスデイでは各教室の通年の取り組みを披露する場であり、他事業所はワクワクしながらテーマや好きなものを考え、利用者個人がどんな風に取り組むか試行錯誤して創作する…その間には利用者と職員やその時訪れていた実習生、ボランティア…いろんな人とのコミュニーケーションも溶け合って仕上がった作品、そのお披露目の機会となります。会場には利用者が楽しそうに、あるいはすごく真剣な眼差しで作品づくりに取り組む写真※1が作品とともに掲示されています。「いつもこの時期にやっているから来たよ」という一般来場者も増え、『芸術祭』はいつしか年に一度の同窓会のような、交流の場にもなってきました。来場された皆さんから寄せられた感想や応援メッセージが利用者・職員の創作活動の励みになって、気が付けば 22 年（22 回）が経過していた…という感じでした。※1：承諾された方のみ

令和元年度（第 18 回）まではイーグレひめじ市民ギャラリーの特別展示室で実施し、時期もほぼ 11 月 3 日の文化の日（今は実施していませんが、『ひめじ福祉まつり』の日）に合わせる形でその前後 2～4 日間開催してきました。

令和 2 年度から 4 年度までは新型コロナウイルス感染症拡大により、合同での『芸術祭』は中止となりました。しかしこの間も各事業所では創作活動にしっかり取り組み、作品は続々と仕上がっていき、その発表の機会として事業所内での展示会、書写デイについては自治会集会所での展示会、広畑デイについては西保健センター玄関先での展示会等各事業所個々に催すと同時に、4 事業所間で Zoom アプリを用いた作品披露会を実施してきました。併せて 4 事業所職員の係会議

は継続して実施し、『芸術祭』のあり方や再開についての意見交換を行いました。この期間はある意味『芸術祭』について再考する良い機会となったように思います。

今年度は新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行したため、4 年ぶりに合同開催で実施することとなりましたが、一方で感染対策も緩められないという考えから、市民ギャラリー第３・４展示室に会場を移し、広い空間でゆったりと展示・鑑賞していただけるよう準備を進めました。従来通りのレイアウトができるわけではなく、係となった職員は会場の下調べなど以前と違う苦労もありましたが 4 年ぶりの開催ということでその間の凝縮された熱量が反動となって、当日までの創作活動や準備につながりました。（止まっていたイベントを再び動かすことは、どの事業所も容易ではなかったと思われます。それでも実施できたことが素晴らしいとうれしい思いでいっぱいです。）また従来の 4 事業所に加え、趣旨に賛同し作業でアートにも取り組んでいる障害者支援センター活動作業グループも参加し、５事業所合同で実施できました。




『芸術祭』に至る過程は多様です。どの事業所も夏くらいから本腰を入れ、創作活動に熱を注いでいきます。一方で、一般来場者を増やすための広報活動も大事です。ホームページへの掲載をはじめ、市の広報課に依頼し「広報ひめじ」「文化情報ひめじ」等への掲載、今年度初の試みでデジタルサイネージ放映（姫路駅中央コンコース、イオンモール姫路リバーシティー）、障害者支援センターのインスタグラムなども活用しました。また、ルネスデイ利用者が作成した『芸術祭』のチラシ（これも作品！）を関係機関、事業所、特別支援学校等に配布して宣伝につなげました。

11 月 7 日には FM-Genki に出演し告知を行いました。宣伝にも利用者が携わる歴史があり、4 事業所輪番で FM-Genki の「飛び出せ！まちの元気人」コーナーに利用者・職員で出演することも広報活動となっています。今年度は広畑デイから利用者 1 名を含む 3 名が出演し、『芸術祭』や各事業所・作品の紹介、日時の告知などをしました。パーソナリティの方のおかげで緊張もほぐれ、上手に告知をすることができました。リアルタイムで各事業所は放送に耳を傾け、終了すると「お疲れ様！よかったよ。」という感想の電話がかかってくる微笑ましい場面もあり、出演した利用者・職員の達成感を増幅させてくれました。

そして開催前日に半日近くかけて搬入を行い、やっと当日を迎えられました。一つひとつの作品が輝いている会場は、とても華やかでエネルギッシュで、圧倒的な迫力があります。各事業所もそれらを上手く見せていて、多くの来場者が足を止めて見入っておられました。2 日間で来場された 299 名それぞれの方が、4 年ぶりの『芸術祭』を存分に堪能することができたのではないかと思います。

『芸術祭』会場の様子

コロナ禍以降、定着した各事業所での作品展示会は、各々『芸術祭』後に別途実施され、利用者、家族、地域の皆さんに身近に披露する機会にもつながっています。今年度広畑デイの共同作品は、市の観光課が行っている世界文化遺産登録 30 周年記念行事に合わせてイオンモール姫路リバーシティーに展示し、３月 23 日にはアクリエひめじにも展示する予定になっています。

エイブル・アート、アウトサイダーアート、アール・ブリュット等々、障害のある人の創作活動等について注目され、個性あふれる作品の良さが、シンプルに良いものは良いという尺度で賞賛されるようになってきました。「障害者のアート」ではなく、「アート」であり、「〇〇さんの作品が素晴らしい」という評価になってきているのです。「アート」という言葉はちょっと背伸びしている感じもあって、あえて誌面では使用してきませんでしたが、振り返ってみると、継続してきた創作活動や作品等は溢れる個性の表現そのものであり、『芸術祭』という場はその表現の場であり、人と人をつなぐ場になってきたのだと確信しています。

発起人から託された『ルネス花北芸術祭』は 22 回を終え、ここで一区切りとすることを関係者で決定いたしました。各事業所の創作活動も、その意義を再確認しながら続いていくであろうし、近年の地域における作品展示会等の実践知は活かされていきます。今後は市全体で障害者の表現の場が拡大されるよう、また人と人をつなぐ場として発展していけるよう形を変えていけたらいいなぁと考えています。来年度の展開を共に考えながら、楽しんで関わっていこうと考えています。

活動報告１

# 第３６回　全国陶器市　出店報告

～かしのきの里　陶芸班～

令和５年１１月にも全国陶器市にかしのきの里陶芸班が出店しました。コロナ禍での中止を除いて今回で３１年連続の参加となります。最終日こそ悪天候でしたが、一番お客様が来場される三連休は天気も良く、小春日和で、予想以上のお客様があちこちから来場されていました。

多くの方を苦しめた新型コロナウイルス感染症の分類が２類相当から５類に位置付けられたことで、この数年間制約されていた様々な規制も緩和されてきました。多くのお客様が笑顔で陶器を眺めておられる様子を見て、少しずつ元の日常や賑わいが戻ってきたなと嬉しく思います。

恒例となった利用者による電動ろくろ実演は、実演する度に周囲に人が集まり、出来上がった作品を見ては、感嘆の声が上がったり、拍手をいただきました。このお客様の反応が何よりも利用者の励みとなり、全国陶器市が終了して間もないにもかかわらず「来年も頑張るわ」とすでに来年に向けて意気込みを語っています。

今年は特に小物の売れ行きが好調で、もともと人気だった「備前玉」に加え、ペットボトルに入れられるタイプや、金魚鉢などに沈めてもらえる様々な形のタイプの「かわり備前玉」とラインナップを豊富にしました。多くのお客様が関心を持たれて、自分好みの備前玉を購入してくださいました。

ここ最近は、メダカブームで、メダカ鉢を求めに来る方もおられ、事業所でも様々な形の鉢を用意しました。今年は大きなカメを会場に持ち込み、メダカを泳がせていると、来られたお客様が悠々と泳ぐメダカに見とれている姿にもほっこりさせられました。

かしのきの里を卒業された元利用者の方々が懐かしい顔を見せに来てくださり、同窓会のようになっているのも、また全国陶器市の楽しみの一つでもあります。

前回初めてかしのきの里の備前焼を買われ、「使い勝手が良かったからまた来たよ」と購入に来てくださった方がいました。また神戸の料理屋さんが商品を注文したいと、テーブルに飾る花入に加えて小皿や鉢、しょうゆ皿など各４０組の受注を受け、もっぱら今はその注文品の作陶に取り組んでいるところです。

今回も多くのお客様にお越しいただき、誠にありがとうございました。また次回も何か一つでも新しい趣向を取り入れた、楽しいブースにできるよう取り組んでいきたいと思います。

# 活動報告 2

## 草木染め～自然のめぐみを作業に～

障害者支援センター　活動作業グループ

障害者支援センターでは、「どんなに障害が重くても働いて社会参加し、稼いだお金で好きなことを楽しむ」をモットーに、一人ひとりに合わせた作業を提供し、その人が社会人として輝けるようになってほしいと考えています。生活介護「活動作業グループ」でも利用者全員が作業に従事できるよう、障害特性に応じて様々な作業を提供しています。

これまでアート作業として、オーラルピース（飲み込んでも安全な歯磨き製品）販売、名刺作成、Ｔシャツ作成などに取り組んできました。企業からの内職作業も取り組んでいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、内職作業が激減しました。「はたらくこと」を大切にしている事業所として、毎日作業に取り組めることが、いかに利用者の生活へのモチベーションや安定につながっているかということを痛感しました。

そこで新たに取り組んだ作業が「草木染め」です。一人ひとり得意な作業を担ってもらえるよう草木染めの作業を細分化しました。

①草木染めのもとになる植物を採取する作業
- 庭の畑に種から植えた藍やバタフライピーなどを育てる。
- 南天や山ごぼう、臭木の実、どんぐり、よもぎなどの植物を採集めてくる。

②葉と茎をわける、実を取る作業
③ミキサーでかくはんする作業
④鍋で煮出す作業
⑤絞り染めの模様を作る作業
⑤染める作業
⑥絞る作業
⑦干す作業

その他にも値札つけ、ポップ作り、さらには染めた糸で刺繍したり、編み物や機織りをする作業もあります。そして、できあがった草木染めのトートバッグやＴシャツ、小物を「おひさまマルシェ」で販売したり、作品展に出展することを目標に日々がんばっています！

ただ、私たちだけの力ではできることも限られており、これら以外にも給食部から玉ねぎの皮をもらったり、地域の方から桜や梅の枝をいただくこともあります。そして何より、この草木染めを始めることができたのは、作業が減ってしまった時に地域の方から草木染めのアイデアをいただいたのがきっかけでした。畑で植物を育てる、地域の方に植物をもらいに行くなど、「染めること」以外にもたくさんの作業工程があり、作業を通して人や地域とつながる機会があるというヒントをいただきました。これからも、地域の方などたくさんの人に支えられながら、様々な挑戦をしていきたいと思います！

# 障害者支援センター洗車班
# ネット予約を導入しました！

予約用 HP

障害者支援センターでは、地域の方々を対象に洗車サービスを行っています。「丁寧・安価・元気」であることが口コミで広がり、地域の方々のお陰で安定した作業を提供することができています。

この度、お客様から「毎回電話で予約することが面倒である」とのご意見を頂きました。そのため予約状況を自分で確認しながら予約を取れるように、12 月に予約用のウェブサイトを立ち上げました。また、予約サイトに繋がる QR コードを載せた新たなチラシを作成しました。一人でも多くの方が予約できるように操作方法を簡単に説明します。

①予約・スケジュールをタップ

②好きな日程・時間を選択

③各項目を入力

④日時など確認して予約へ

⑤登録したアドレスに確定が送信されると予約完了になります

活用し始めてまだ 1 ヶ月程度ですので十分には周知できていない状況ではありますが、是非一度、この機会に支援センターの洗車サービスを体験していただければと思います。これからも「丁寧・安価・元気」であることが口コミで広がり、地域の皆様に愛される洗車班を目指して一同精進していきたいと思います。

| 料金表（例） | A コース | B コース | 車内清掃 | A＋車内清掃 | B＋車内清掃 |
|---|---|---|---|---|---|
| 軽自動車 | 1000 円 | 1700 円 | 600 円 | 1500 円 | 2100 円 |
| コンパクトカー（フィット・アクア） | 1200 円 | 1900 円 | 700 円 | 1800 円 | 2400 円 |
| セダン車（クラウン・ヤリスクロス） | 1400 円 | 2300 円 | 700 円 | 2000 円 | 2800 円 |
| ワンボックスカー・SUV（ノア・セレナ・CX-5） | 1500 円 | 2500 円 | 800 円 | 2200 円 | 3100 円 |

# ルネス花北成人部事業所一覧

| 姫路市立　障害者支援センター（多機能型）<br>〒670-0804　姫路市保城 309 番地 1　TEL　079-282-2384　FAX　079-224-6751 | |
|---|---|
| 就労移行支援 | 就職訓練班 |
| 自立訓練 | 自立訓練班 |
| 就労継続支援Ｂ型 | 喫茶班「café ぴあのぴぁ～の」「café あっと・ゆ～る」「ふれあい」<br>製菓班「クッキー工房　樫の詩」・洗車班・作業第一班 |
| 生活介護 | 軽作業班・個別作業班・活動班 |

| 姫路市立　かしのきの里（多機能型）<br>〒671-2246　姫路市打越 1352 番地 6　TEL　079-267-0202　FAX　079-267-0445 | |
|---|---|
| 就労移行支援<br>就労定着支援 | 就労移行班 |
| 就労継続支援Ｂ型 | クリーン作業・陶芸班 |

| | |
|---|---|
| 生活介護 | 姫路市立　書写障害者デイサービスセンター<br>〒671-2203　姫路市書写台二丁目 7 番地 1<br>TEL　079-267-2636　FAX　079-267-2794 |

| | |
|---|---|
| 生活介護 | 姫路市立　広畑障害者デイサービスセンター<br>〒671-1116　姫路市広畑区正門通三丁目 2 番地 2<br>TEL　079-239-1888　FAX　079-239-1898 |

| | |
|---|---|
| 地域活動支援センターⅡ型 | 姫路市立　在宅障害者デイ・サービスルーム<br>〒670-0804　姫路市保城 309 番地 1<br>TEL　079-282-2384　FAX　079-224-6751 |

| | |
|---|---|
| 障害児・者一時保護施設 | 姫路市立　障害者やすらぎルーム<br>〒670-0806　姫路市増位新町二丁目 37 番地<br>TEL　090-2598-9237　FAX　079-224-3173 |

| | |
|---|---|
| 体育施設 | 姫路市立　障害者体育館<br>〒670-0806　姫路市増位新町二丁目 37 番地<br>TEL　079-288-7122　FAX　079-224-3173 |

| | |
|---|---|
| 就労継続支援Ａ型 | あぼしリサイクル事業所<br>〒671-1236　姫路市網干区網干浜 4 番地 1　エコパークあぼし内<br>TEL　079-273-8889　FAX　079-273-8870 |

| | |
|---|---|
| 相談支援事業所 | ぱっそ・あ・ぱっそ<br>〒670-0955　姫路市安田三丁目 1 番地　姫路市総合福祉会館　2 階<br>TEL　079-240-6702　FAX　079-240-6705 |

ゆうあいだより　№184　令和 6 年（2024 年）2 月 20 日発行
発　行　姫路市総合福祉通園センター成人部
編　集　「ゆうあいだより」編集係